

# 国の交わりは民の親しきにあり、民の親しきは心のつながりにあり

北京外国語大学学生代表

見学日時：2018年12月3日（月） 11:30-13:30

見学場所：日比谷松本楼

## 見学概要



私たち訪日団一行は、12月3日の11時半に都心にある日比谷松本楼に到着した。そして日比谷松本楼ならではの美食を堪能した後、松本楼社長で梅屋庄吉氏の曾孫にあたる小坂文乃女史からの孫中山、梅屋庄吉両氏の革命時期の友情についてのお話を拝聴した。

## なぜですか？

問：孫中山氏が日本で中国同盟会を結成したことは知っているが、当時の革命過程において孫中山氏をサポートした日本人はいるのか？

答：サポートした日本人は存在する。その中でも最も重要だったのは梅屋庄吉氏である。二人は香港で出会い、意気投合し親しい間柄となった。梅屋庄吉氏は孫中山氏の革命事業を軍備購入など金銭面で支援し、その後革命の成果が袁世凱に奪われた際は孫中山氏の日本亡命を手助けした。そして南京での孫中山氏の国葬の際は、日本人としてただ一人孫中山氏の柩に付き添っている。梅屋庄吉氏は孫中山氏と半生を共にした親友である。

問：歴史の教科書では孫中山氏の記念銅像を見かけるが、この銅像と梅屋庄吉氏にはどのような関係があるのか？

答：銅像は、孫中山氏が亡くなった後、梅屋庄吉氏が大金をかけ作ったもので、このために彼は自身の娘千世子の結婚資金まで利用した。この銅像には梅屋氏の孫中山氏への尊敬の念や思いが込められているだけでなく、中国において孫中山氏のような「中日友好、アジア振興、人類平等」という偉大な理想を持つ後継者が現れてほしいとの梅屋氏の熱意が示されている。

問：宋慶齡女史が家族の反対を押し切り20歳以上も年上の孫中山氏と結婚したことは美談と言える。二人は東京で結婚したが、梅屋氏はこの時どのような役割を果たしたのか？

答：梅屋夫婦はこの時仲人の役割を果たした。梅屋夫婦は二人の気持ちを充分理解していて、二人の結婚を後押しした。この事からは、プライベートも打ち明ける孫中山氏と梅屋庄吉氏の付き合いの深さ分かる。



## 感想

今回の見学では、日本初の西洋式公園である日比谷公園の美しさや松本楼の美食もさることながら、最も印象深かったのは梅屋庄吉氏と孫中山氏との偉大な革命時期の友情であった。

まさしく「国の交わりは民の親しきにあり、民の親しきは心のつながりにある」であった。二人の素晴らしい友情は改めてこの言葉における、心は「日中友好、アジア振興そして人類の平等の理想に関して私たちの考えは一致している（孫中山氏の墓前での梅屋庄吉氏による悼辞）」でつながり、民は「君は兵を挙げたまえ。我は財を挙げて支援す」の経済的援助や孫中山氏の日本亡命時のサポート、そして孫中山氏と宋慶鈴女史の結婚における後押しといったもので親しくなり、国は梅屋庄吉氏の手記に記された「私は中国の革命への参加を決意する」との言葉により交わる、との意味を伝えるものであった。



これらから今日の時代を見ると、この3つの段階において心のつながりは基礎であり、民の親しきは経路で、国の交わりは条件が整えば自然に成就するものであることが分かる。私たちは今回の活動の参加者として、今後も梅屋庄吉氏と孫中山氏との革命の友情に学び、広い心を持ち、世界的視野に立って物事を考え、心のつながりと民の親しさの理念を徹底し、日中友好に自らの貢献をすべきである。